

## 令和4年度 第1回市立小諸図書館協議会 議事録

日時 令和4年6月22日(水) 15時00分～16時30分

場所 こもろプラザ 小諸市交流センター 会議室6・7

出席者

委員：出席6名 欠席1名

小諸市教育委員会

山下千鶴子教育長 富岡昭吾教育次長 安藤貴正文化財・生涯学習課長

小山輝之文化財・生涯学習課係長 土屋千浩文化財・生涯学習課主事

市立小諸図書館

大池孝志館長

運営一部業務受託者

特定非営利活動法人本途人舎業務責任者大林晃美 副責任者井出明子

1. 開会

2. 委嘱書の交付

3. 自己紹介

4. 教育長あいさつ

5. 正副会長の選出

6. 協議事項

(1) 令和3年度図書館事業報告について【資料2】

(2) 令和4年度図書館事業計画について【資料3】

委員：小諸市としての図書館の運営計画はあるのか？

事務局：小諸市の総合計画の中に位置づけられており、それをふまえて教育委員会では、詳細な仕様書を作成している。その仕様書を基に本途人舎が具体的に計画を立て実行している。

委員：ひだまりサロンはとてもいい企画。幅広く多岐にわたる内容で、いろいろな人が楽しめる。普段図書館に来ない人が来るきっかけになると思う。今後もぜひ続けほしい。

委員：図書館が生涯学習の中心的機能を持ちつつある。

(3) 今後の図書館運営について(意見交換)【資料4】

事務局：一部業務委託の契約期間3年が経過し、今年度は1年延長となっている。次年度からの運営方法等については現在検討しているところである。今日の協議委員会では平成30年度に運営について諮問し答申をいただいた経緯もあることから、

今回3年間を振り返って、一部業務委託がどうであったか、率直な意見をお聞きしたい。

委員：他の図書館に比べて、居心地が良い、イベントも良い、イベントの幅も広い、満足している。

委員：契約の期間は「3年」と決まっているのか？この協議会の場でまとまった意見が、どこまで反映されるのか？市民への共有はどのように行うのか？市民が知らない間に決まっていたり、業者が変わっていたり、今の運営が継続されない可能性もあるのか？

事務局：期間は決めて契約を行う。ある程度の継続性は必要なため、複数年契約となると思われる。協議会でまとめられた意見が全て受け入れられるわけではないが、業者の選定を行う際に参考にさせていただく。運営の方向、業者の選択等、決めるのは市または教育委員会。みなさんから意見等をお聞きして、市が責任を持って決定していく。

委員：県立高校の図書館司書についても民間委託の話が出たことがあった。強い反対があり実現しなかったが、結果非正規が増えた。市民が満足する業者選定をしてほしい。いちばんは利用する皆さんが、楽しく使える図書館をお願いしたい。

委員：学校での団体貸出では、生徒だけでなく、先生からの希望にも対応していただき、たいへん助かっている。本が好きな子は、家族で公共も利用しているが、学校図書館を利用していない子は公共も利用がないと思われる。イベントがあると利用しやすいと思う。きっかけになる。今の雰囲気でも今後も続けていただけるといいと思う。

委員：年間を通して企画、イベントもやっている、雰囲気もいい、利用も増えている、これ以上利用を増やす努力をするより、現状でもいいのではないかな。

委員：蔵書も多岐にわたっていて、良い。5月のテラスの鯉のぼりも良かった。図書館に来て季節を感じられる。

委員：現在の職員のみなさんは一所懸命やっている。ただ、待遇面で持続していくのは難しいのではないかな。改善は必要。現役時代「形式より、中身をちゃんとしてくれ」と言われたことがある。市民にも良い、働いている人にも良い図書館であってほしい。それには、市の仕様、方針が大事。

委員：現在の運営を、引き継いでいってもらいたい。5月の子どもの日、図書館を探検したり、書庫に行ったり、子どもに開かれているのは、とてもいいこと。

委員：非正規、単年度契約だと、長期的な仕事の蓄積ができない。経験が必要。その「経験」をどう継続させていくか。

委員：子ども、特に低学年の子に本に親しんでもらうのが大切。学校で、社会科見学とかで図書館に連れてきてもらいたいのではないかな。

委員：寄贈資料は、どんな本が寄贈されたのか、広報等で市民に知らせる機会があつて

もいいのではないか。

事務局：今後検討したい。

事務局：コロナ禍の中、館を開けるかどうか、迷いながらやってきた。市及び教育委員会の方針は「出来る限り開館」とのことだったので、近隣の図書館が休館している中、方針に沿って対策をたてながら、いろいろな事例を参考にし、開館してきた。今年度は教育委員会として「図書館に来たことのない人に来てもらえる取り組みをしよう」ということで進めている。具体的には、4月より広報のページを、これまでのイベントのお知らせから、図書館利用のお誘い等の内容に変更した。また、子どもの日には、「子ども優先デー」として、子どもが騒いだり、赤ちゃんが泣いたりしてしまうのを心配して図書館に来ることをためらってしまう人たちに向け、この日は「大人たちが子どもたちの行動を大目に見る日にします」とうたって、館内で取り組んでみた。また、どうであったか、感想など聞けるとありがたい。

委員：図書館的なものの機能を、普段図書館を使っていない人が活字を楽しむきっかけになるよう広めていきたい。